

# 東部学区小中一貫教育グランドデザイン（R4～6）

## ☆酒田市の教育目標と目指す人間像

◎学び合い、ともに生きる、公益のまち酒田の人づくり

○自ら学び、考え、時代の変化に対応できるたくましい人

○自分と他の人を大切にし、多様性を認め支え合う人

○ふるさとの自然・歴史・文化を愛し、公益の心でこれからの社会を担う人

そのために

根の力の根幹  
である  
自己効力感・  
生活習慣を  
育成する

## 1 構 想

### (1) 目指す子ども像

対話を通して、よりよいものを創り上げようとする児童・生徒

目指す子ども像に込めた思い

★イメージは「あそび」→「学び」→「創造」

◆キーワードとして

#### ① 自律

仲間 尊重 納得 対話

#### ② 貢献（尊重）・志（創造）

つながり 夢 希望 あこがれ  
希求 意欲 よりよく生きる

#### ③ 授業改善：探究型学習の推進

納得 よりよいもの  
高め合い 学び合い  
魅力ある課題 解きたくなる

#### ④ 東部学区の長所・良さを活かす

素直 正直 寛容 従順 優しい  
自然 出会いを楽しみにする子

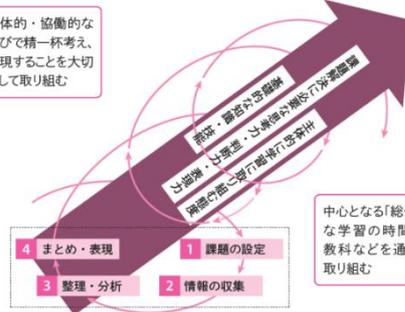


幼児期の仲間と知恵を出し合う「あそび」

図2 山形県が目指す探究型学習のイメージ

小中高を通じた「確かな学力」の育成～「習得」そして「探究」へ～  
「何を知っているか」にとどまらず「何が出来るか」へ

主体的・協働的な  
学びで精一杯考え、  
表現することを大切  
にして取り組む



中心となる「総合的な学習の時間」や教科などを通して取り組む

教育山形「さんさん」プランによる少人数学級の利点を最大限に活かす

### (2) 9年間を通してつきたい力 **根の力**=自己効力感「やればできる!」・生活習慣の育成

#### ① **自律的な力**：自らを律し、自分のよさを活かす・伸ばす

(夢や憧れを持ち、自己有用感が感得されていたか。)

#### ② **多様性を理解し尊重する力**：自他共に認め合い、思いやりの気持ちを持つ

(深い理解と納得を求めようとしているか)

#### ③ **創造する力**：自らの想いや仲間の想いを伝え合い、最適解を導き出す

(答えの無いものに対し、建設的解決のための想いを伝え合おうとしているか)

【発達段階における基盤として育てたい資質・能力】



(3) 9年間を貫く「まなびの軸」 ◀自己効力感・生活習慣の育成

① 【一人一人に応じた学びの保障と協働的な学びの充実を図る視点】

- ・ みんなで答えを作り上げていく授業と自分事となる魅力ある課題
- ・ ピンポン型からラグビー型授業

② 【主体的な経験や他者との関わりから豊かな「根っこ」が育っていく視点】

- ・ グループ活動の重視
- ・ 学年、学級、児童会、生徒会を中心とした話し合い活動の推進
- ・ 生徒指導の三機能を生かした学級経営と授業

(4) 評価指標と効果の検証 ◀自己効力感・生活習慣の成長度（根の深さ）をみる

≪「根の力」調査（酒田市の調査 年2回：4月・1月）の結果より≫

① 自律的な力：自らを律し、自分のよさを活かす・伸ばす

- ・ 将来の夢や目標をもっている
- ・ 自分でやると決めたことは最後までやり遂げる
- ・ 家で自分で計画を立てて勉強をする
- ・ 毎日、同じくらいの時刻に起きている

② 多様性を理解し尊重する力：自他共に認め合い、思いやりの気持ちを持つ

- ・ 自分にはよいところがあると思う
- ・ 自分と違う意見について考えることは楽しい
- ・ 人が困っている時は進んで助ける
- ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う
- ・ 友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まできくことができる

③ 創造する力：自らの想いや仲間の想いを伝え合い、最適解を導き出す

- ・ 自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる
- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる
- ・ 友達と協力するのは楽しい
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している

《各校の学校評価アンケートの結果より》

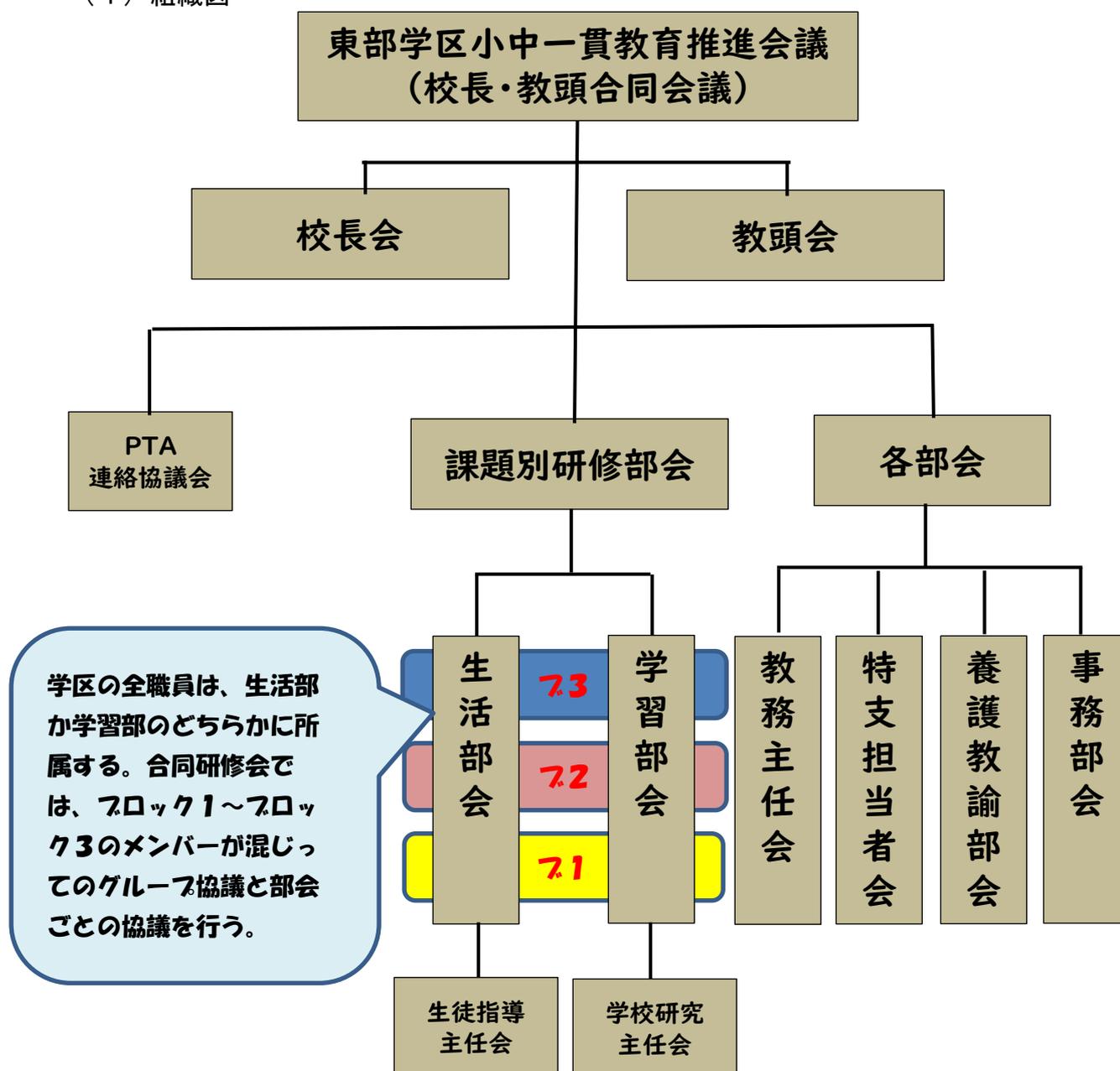
- ① **自律的な力：自らを律し、自分のよさを活かす・伸ばす**
  - ・(BU手帳を活用し) 計画的な学習や生活をしている。
  - ・将来に夢や志をもっている。
- ② **多様性を理解し尊重する力：自他共に認め合い、思いやりの気持ちを持つ**
  - ・互いの違いを認め合い受け入れ、思いやりのある集団になっている。
- ③ **創造する力：自らの想いや仲間の想いを伝え合い、最適解を導き出す**
  - ・自分の想いや考えをきちんと伝えている。自分で考えて判断し行動している。

《学区教職員への評価アンケートの結果より》

- ① **自律的な力**として、自らを律し、自分の良さを活かす・伸ばす力は育っているか。
- ② **多様性を理解する力**として、自他共に認め合い、思いやりの気持ちは育っているか。
- ③ **自らの想いや仲間の想いを伝え合える発信力**は育っているか。

## 2 推進組織と役割

### (1) 組織図



## (2) 役割 全体計画の構想：「東部学区小中一貫教育推進会議」（校長・教頭合同会議）

### 1 校長会

- ① 全体計画を構想し、研究実践を統括する。
- ② 組織各部（教頭会・教務主任会 等）を担当し、指導助言に当たる。

### 2 教頭会

- ① 校長会を補佐し、地域全体の実践の企画・運営にあたる。
- ② 各部の企画運営にあたる。（生活部、学習部）
- ③ 各小・中学校と情報を交換しながら成果と課題をまとめる。
- ④ 全体研修会を企画し、具体的に運営する。
- ⑤ 地区PTA・コミセン等との連携を図り、互いに地域の情報を交換する。

### 3 課題別研修部会

#### (1) 生活部会

- ① 中学校進学に向けた、「わたり」指導の強化を図ることで、義務教育9年間の連続性を重視し、諸問題の防止に資する。
- ② 東部地区全体の実情を把握して研修する機会とし、横断的・積極的な東部地区の生徒指導体制を構築する。
- ③ 地域内の児童・生徒における生活上の諸問題の解決や、問題行動の未然防止に向け小中連携をより強める。

#### (2) 学習部会

- ① 日常の学習指導や家庭学習について共通の取り組みを行っていく。
- ② 小中・小小の指導の一貫性を大事にする。
- ③ R4より、学校研究の大テーマを学区で統一して取り組む。【学校研究主任部会】

### 4 各部会

#### (1) 教務主任会

- ① 地域の課題や特性を踏まえ、各小・中学校との連携を図りながら、自校の実態に即した教育課程を計画し、その運営にあたる。
- ② 校長や教頭の助言のもと、実践にあたる。
- ③ 校内授業研究会等の職員交流を運営する。
- ④ 各校の学力向上を推進する。（NRTの結果、各校の学力向上対策を情報交換する）
- ⑤ 小・中学校訪問の連絡調整を図る。

#### (2) 特別支援教育担当者会

- ① 特別支援学級担当者が、各校の取り組みや実態について話し合ったり、交流会の運営について検討したりする。
- ② 年2回交流会を開き児童生徒の親睦を図る。

#### (3) 養護教諭部会

- ① 子どもたちの心身の健全育成を図るため保健指導や保健活動の情報交換や研修等を行う。

#### (4) 事務部会

- ① 集金関係業務や会計業務について、各校の実態や情報交換を行う。
- ② 各校を訪問し、事務機器の研修を行う。

### PTA連絡協議会

- ① 保護者・PTAのあり方、小中一貫教育についての合同研修
- ② 小中に渡る学校支援

### 3 令和4年度の実施計画（主な取組）

時期	実施計画
4月	校長会①
5月	東部学区小中一貫教育推進会議（校長・教頭合同会議） 教頭会①、教務主任会①、事務部会①、学校研究主任会①
6月	東部地区小中一貫教育全体研修会① 校長会②、特別支援学級担任者会①、生徒指導主任会①、事務部会②
7月	養護教諭部会①、事務部会③、学校研究主任会② 東部地区 PTA 連絡協議会
8月	教頭会②、事務部会④
9月	特別支援学級担任者会②、事務部会⑤
10月	東部地区 PTA 全体研修会、事務部会⑥
11月	校長会③、教頭会③、教務主任会②、生徒指導主任会②、 特別支援学級交流会、事務部会⑦ 東部地区小中一貫教育全体研修会②
12月	教頭会④、学校研究主任会③、事務部会⑧
1月	特別支援学級担任者会③、事務部会⑨ 東部学区小中一貫教育推進会議（校長・教頭合同会議）
2月	教務主任会③、校長会④、教頭会⑤、養護教諭部会② 生徒指導主任会③、事務部会⑩、学校研究主任会④
3月	

※ 校内授業研究会の年間計画を一覧にして各校に配布、授業研究会を通して交流・研修を深める。（互いの授業を見合って、互いを知る）

※ 中学校の通常授業を小学校の先生方が参観できる日を別に設ける。

※ 東部地区小中一貫教育全体研修会①の課題別研修部会の協議では、東部学区で「つきたい力」について、各部（生活・学習）、各ブロックの視点から現状や今後の取り組み等について協議する。【持ち方の詳細は教頭会担当】

- ☛ 各校・各ブロックで意識して取り組み、年度末に全体研修会②で協議。ふり返りアンケートも行ったうえで、その声を生徒指導主任会、学校研究主任会でまとめながら、来年度に向けての取り組みを考える。

### 4 地域・家庭との連携の視点からの取り組み等

- ・ 東部地区 PTA 連絡協議会（各校の校長・教頭・PTA 三役等）を年1回実施し、小中一貫教育についての理解を深めてもらう機会とする。合わせて、東部地区における PTA 活動および家庭教育に関する取り組みについて研修を深めるとともに、情報交換を行う。
- ・ 東部地区 PTA 全体研修会開催にあたり、外部講師を招聘し、小中一貫教育についての理解を深める機会とする。合わせて、子育てに関する研修も深める。
- ・ 平田、松山両支所との懇談の機会を設け、「学校を核とした地域づくり」＝スクールコミュニティ実施に向けての共有を図る。